

**東京都港区議会**  
**「みなと政策クラブ」**  
**東日本大震災の福島県いわき市における**  
**被害状況について**  
**行政視察報告書**

平成23年6月9日

作成者 清家あい

参加議員 全5名

七戸じゅん

樋渡紀和子

杉浦のりお

小田あき

清家あい

順不同

## 行政視察行程

月日	時間	摘要（行政視察先）
2011年 6月9日	7:30	港区役所発
	10:00	いわき市役所着 いわき市議会事務局から被害状況等についての説明 避難所のいわき市立体育館を視察 四倉地区（市北部）の被害状況の視察
	15:00	いわき市発
	18:00	港区役所着

※移動手段はレンタカー運転（往路七戸、復路清家）

### 【視察目的】

今年3月11日の東日本大震災で、大津波により甚大な被害を受けた福島県いわき市。港区は、福島県いわき市と商店街友好都市協定を結んでおり、被災直後から支援物資を送ったり、支援職員を派遣したりなどの支援をしていることから、いわき市の被災状況を確認し、今後、必要な支援などを把握するため、現地を視察する。

### 【福島県いわき市について】

世帯数：128,247 世帯

人口数：339,277 人

（2011年4月現在）※いわき市 HP より

予算：123,436,789（平成23年度当初予算額、一般会計）



産業：高度経済成長期のころは第一次産業で発展し、その後工業化による発展を図る。海岸部には水族館や海水浴、サーフィンなどの観光資源も存在する。

<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/kurashi/index.html>（いわき市 HP）

## 【いわき市の被害状況について】

### ・災害の規模

3月11日 14:46頃 地震（M9.0：震度6弱）及び大津波発生  
4月11日 17:16頃 地震（M7.1：震度6弱）発生  
4月12日 14:07頃 地震（M6.3：震度6弱）発生

・人的被害 死者数：304名  
行方不明者：調査中

・住宅被害 18,698棟

・災害からの避難 避難所数：33箇所  
避難者数：1,074人

※最多時3月12日10時現在

避難所数：163箇所  
避難者数：19,813人

### ・公共施設等被害（主なもの）（平成23年4月25日現在）

庁舎関係（本庁舎、各支所）：17棟	公共下水道・清掃施設等：447箇所
保育所：26箇所	いわき市中央卸売市場：法面崩壊、設備破損
道路：742路線、1244箇所	公園：54箇所
学校教育施設：122箇所	消防施設：55箇所
水道施設：約1,600箇所	総合磐城共立病院：内壁・床亀裂、設備破損等

## 【港区との関係、支援状況について】

港区は平成20年8月25日にニュー新橋ビル商店連合会と共に、いわき市及び社団法人いわき観光まちづくりビューローと「商店街友好都市との交流に関する基本協定書」を提携した。東日本大震災以降、この協定に基づいてミネラルウォーターや毛布、また区民の皆さんから募った物資を配送するなどの**物資支援**や、被災家屋の罹災証明申請に伴う現地調査などや道路改良設計・工事管理業務などの**職員派遣**、さらに「がんばっぺ！いわき オール日本キャラバン」（平成23年4月12、13日）といった**イベントの開催**を実施してきた。

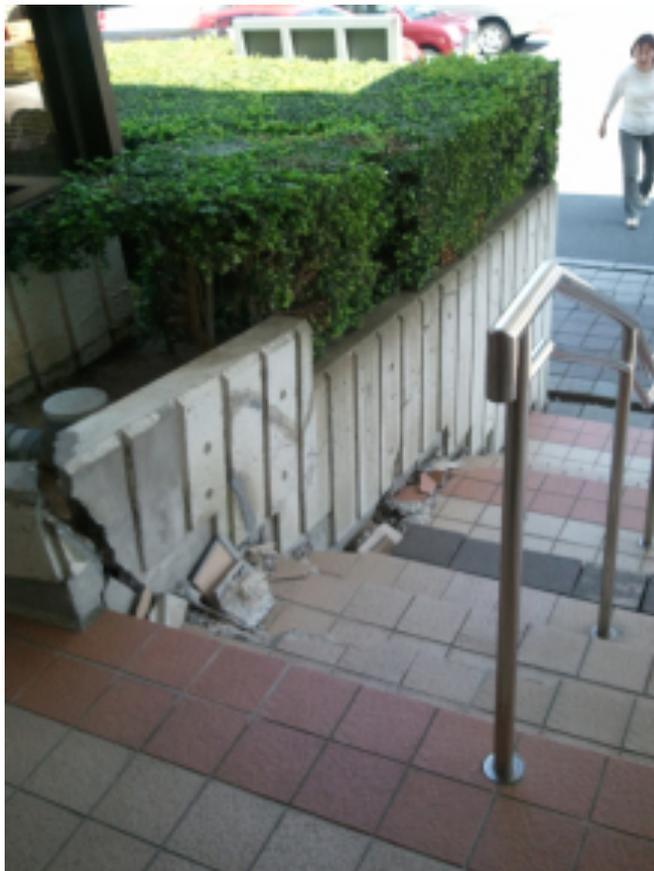
## 【視察報告】

### ① いわき市役所

午前7時半に港区役所を出発し、レンタカーで常磐道をまっすぐ行き、約2時間半で到着。

いわき市街地の様子は、意外と落ち着いているように見えた。車が通り、大型チェーン店が通常の営業をしていて、人が普通に生活している普通の地方都市の日常。

だが、よく見ると、市役所の階段などが崩れ落ちたままになっていて、被災時の傷跡が生々しく残っていた。



議会事務局の方の話。

「被災直後の2～3週間は、人も車も通らなくて、物が何もなくて本当に大変でした。今思うと、信じられないくらいですが。今は水がやっと完全復旧してきたところで、

だいぶ落ち着いてきました。」

② 避難所の「いわき市立体育館」



いわき市の避難所は、5月20日現在で33カ所。避難者数は1074人。  
最多時の3月12日には、163カ所に、19813人が避難していたという。

室内は段ボールで仕切られた寝床で埋め尽くされており、高齢者が数人、体を横たえていた。玄関口で、ぼんやりとタバコを吸う中年の男女の姿もあり、みな、ひどく疲れ切っているように見えた。

避難所の職員の話。

「多くの避難所が閉鎖になって、いろいろな避難所からここに集まってきた人が多いので。避難所によって雰囲気は全然違うんですね。」

「ライフラインは復旧して、ボランティアの方が娯楽も提供してくれているし、足りないものはないのだけれど。毎日、お弁当で、みな血圧が高いですね。」

③ 四倉地区（市北部）の海岸

8メートルの大津波が来た場所で、コンクリートの柱がなぎたおされていた。



瓦礫が山積みになっており、撤去作業が進められていた。  
ヤシの木が立ち並ぶ美しい海岸。



海沿いの家は、めちゃくちゃになっていた。  
「解体意思確認済み」の張り紙がされた家主のいない家が立ち並んでいた。



家に戻ってきていた年配の女性に話を聞いた。

「大きい津波が来るって聞いて、あわてて逃げたのよ。ずっと親戚のところに避難していたのだけれど、片づけ作業が始まると聞いて、4月に戻ってきたの」

誰もいない崩れた家ばかりの一角の中で、津波に流された家財を一つ一つ拾ってきて、家に並べ、生活を立て直そうとしているようだった。

港区の支援に対して、「ありがとう」と言っていた。

このように、家がめちゃくちゃになっている一角もあれば、少し離れたところには全く被害がないように見える家が並ぶ一角もあり、津波の水の流れの跡がそのまま街に残っているようだった。

#### ④ 食事処

海岸のすぐ近くに営業している食事の店があり、昼食をとった。  
営業している店があることに、驚いた。



巨大な煮魚が出てきた。



ここで海産物を食べることに、個人的には抵抗があったが、店内にいた3、4組の客（地元の工事作業員や役所の方々とみられる）は誰も気にしていない様子だった。  
店員は、「震災前に釣って、冷凍保存していた魚です」と話していた。

町のあちこちに、「がんばっぺ！いわき」の言葉が貼られていて、本当に大変なのはこれからなのだろう、と、道行く人たちを見ながら、思わずにはいられなかった。